

# 孫子 ソンシ 生没年不詳

呉の将軍で兵法家。生没年未詳。孫子とは、孫武(そんぶ)の尊称である。

孫武の伝記はほとんど残されていない。『史記』孫子呉起列伝によれば、孫武は春秋時代末期の斉(せい：山東省)の人で、呉王闔廬(こうりょ：前514～前496在位)に仕えた。呉の将軍となった後は、西の強国楚を破り、北では斉や晋の国に勢威を示して、諸侯に勇名を馳せたとされる。

『史記』には、孫武が呉王に用いられた際の逸話も残されている。孫武の記した兵法13編を読んだ呉王は、彼の兵法家としての実力を試そうと思い、兵の代わりに宮中の美女を孫武に訓練させた。孫武は、命令に従わなかった隊長格の寵姫(ちょうき)二人を切り捨てることによって、美女たちを思う通りに動かし、これを見た呉王は孫武を呉の将軍として迎え入れたという。

## Great Books 06 孫子(そんし)

中国、春秋時代末期の最古の兵法書。孫武(そんぶ)著。

『史記』孫子呉起列伝には、孫武と孫臏(そんぴん)の二人の名が孫子として記されており、また孫武に対する記述も簡略だったため、『孫子』は孫武の著ではないと考える人も多く、後人偽作説や孫臏自著説等も主張された。しかしながら、1972年、山東省銀雀山(ぎんじゃくざん)の前漢時代の墓から出土した竹簡のなかに、現行の13編の『孫子』と、後日『孫臏兵法』と名づけられた二つの兵法書が含まれていたことから、『孫子』は孫武の兵学を伝えるものと考えるのが通説となった。

『孫子』は、計・作戰・謀攻・形・勢・虚実・軍争・九変・行軍・地形・九地・用間・火攻の13篇で構成される。

第一の計編で、孫武は、戦争開始以前の軍備の重要姓を述べ、戦争は国家の存亡の分かれ道であると説く。『孫子』は決して好戦的な書ではない。孫武は、作戰編で軍費と国家経済との関係を論じた上で戦争は莫大な浪費であると結論し、謀攻編では戦わずして勝つ方法を主張する。「百戦百勝は、善の善なる者には非らざるなり。戦わずして人の兵を屈するは、善の善なる者なり。」(謀攻編)とあるように、戦争すなわち戦闘というわけではないのである。『孫子』においては、国家の利益に結びつかない戦争は否定される。

続く形・勢・虚実の各編は、戦術原論とでもいべきもので、この3編のなかで、孫武は、勝利に結びつく態勢や勢い、敵軍の行動を操って主導権を握るための方法を論じている。後半の軍争・九変・行軍・地形・九地・用間・火攻の各編は、これを受けてより実践的な各論へと展開したものである。

いずれにせよ、『孫子』は現実主義の立場に立っており、無意味な戦争を戒め、戦争において主導をとることを強調する。『孫子』が、武経七書(『孫子』『呉子』『尉繚子』『六韜』『三略』『司馬法』『李衛公問对』)の中で最も重要視され、広い範囲にわたって影響を及ぼしたのは、戦争のみならず、人間に対する深い洞察があったからであろう。

## Key Phrase 彼れを知りて己れを知れば、百戦して殆うからず

孫子曰わく、兵とは国の大事なり、死生の地、存亡の道、察せざるべからざるなり。(『孫子』計編)

故に勝を知るに五あり。戦うべきと戦うべからざるを知る者は勝つ。衆寡の用を識る者は勝つ。上下の欲を同じうする者は勝つ。虞を以て不虞を待つ者は勝つ。將の能にして君の御せざる者は勝つ。この五者は勝を知るの道なり。故に曰わく、彼れを知りて己れを知れば、百戦して殆うからず。彼れを知らずして己れを知れば、一勝一負す。彼れを知らず己れを知らざれば、戦う毎に必ず殆うし。(『孫子』謀攻編)

故に戦道必ず勝たば、主は戦う無かれと曰うとも必ず戦いて可なり。戦道勝たずんば、主は必ず戦えと曰うとも戦う無くして可なり。故に進んで名を求めず、退いて罪を避けず、唯だ民を是れ保ちて而して利の主に合うは、国の宝なり。(『孫子』地形編)

(現代語訳)

孫子という。戦争とは国家の大事である。〔国民の〕死活がきまるところで、〔国家の〕存亡のわかれ道であるから、よくよく熟慮せねばならぬ。

そこで、勝利を知るためには五つのことがある。〔第一には〕戦ってよいときと戦ってはいけないときとをわきまえていれば勝つ。〔第二には〕大軍と小勢とのそれぞれの用い方を知っておれば勝つ。〔第三には〕上下の人々が心を合わせていれば勝つ。〔第四には〕よく準備を整えて油断している敵に当たれば勝つ。〔第五には〕将軍が有能で主君がそれに干渉しなければ勝つ。これら五つのことが勝利を知るための方法である。だから、「敵情を知って身方の事情も知っておれば、百たび戦っても危険がなく、敵情を知らずに身方の事情も知っていれば、勝ったり負けたりし、敵情を知らず身方の事情も知らないのでは、戦うたびにきまって危険だ。」といわれるのである。

そこで、合戦の道理としてこちらに十分の勝ちめのあるときは、主君が戦ってはならないといっても、むりにおしきって戦うのが宜しく、〔逆に〕合戦の道理として勝てないときは、主君がぜひと戦えといっても、戦わないのが宜しい。だから、功名を求めないで〔進むべきときに〕進み、罪にふれることをも恐れないで〔退くべきときに〕退いて、ひたすら人民を大切にしたいうえで、主君の利益にも合うという将軍は、国家の宝である。

< 金子治(訳注)『孫子(岩波文庫)』 岩波書店 >

## ◆ Great Books 文献案内

- 📖 孫子(岩波文庫) / 金子治(訳注)  
岩波書店 2000年刊 194, 8p <I39/YA> 資料番号 21250865  
\* 新資料の竹簡文との照合も経た新訂版。巻末に『史記』孫子伝の現代語訳あり。
- 📖 孫子(講談社学術文庫) / 浅野裕一(著)  
講談社 1997年刊 316p <399.23/1> 資料番号 20944450  
\* 従来の宋時代のテキストより1000年以上も古い前漢武帝時代の竹簡文を底本に使用。
- 📖 全釈漢文大系 22 孫子・呉子 / 山井湧(著)  
集英社 1975年刊 438p <122/30/22> 資料番号 10204428
- 📖 新釈漢文大系 36 孫子 呉子 / 天野鎮雄(著)  
明治書院 1972年刊 518p <082/14/36> 資料番号 12785812  
\* 『孫子』と『呉子』に対する詳細な注釈書。

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 「孫子」を読む(講談社現代新書) / 浅野裕一(著)  
講談社 1993年刊 226p <399.2LL/105> 資料番号 21543392  
\* 主に太平洋戦争を戦例にし、孫子13編の主要な部分を解説する。
- 📖 新釈漢文大系 88 史記8(列伝1) / 水沢利忠(著)  
明治書院 1990年刊 431p <082/14/88> 資料番号 20215000  
\* 孫子・呉子の伝記「孫子呉起列伝」の詳細な注釈あり。
- 📖 中国の思想 第10巻 孫子・呉子 改訂増補 / 村山孚(訳)  
徳間書店 1973年刊 323p <122.08/1/10> 資料番号 21302799  
\* 『孫子』『呉子』の全訳に加えて、『尉繚子』『六韜』『三略』『司馬法』『李衛公問対』の代表的な部分を抄訳。
- 📖 世界の名著 10 諸子百家 / 金谷治(編)  
中央公論社 1966年刊 574p <080/5/10> 資料番号 12784286
- 📖 孫子 / 海音寺潮五郎(著)  
毎日新聞社 1964年刊 261p <FI/K68-13> 資料番号 12186169  
\* 両孫子のエピソードを通してその生涯を描く歴史長編小説。